

加美町

大宮寺山門



加美町小野田地区のやくらいじんじゃ薬菜神社にある「だいぐうじさんもん大宮寺山門」は、町指定の有形文化財で、じょうきょう貞享年間（1684年～1688年）に建てられたとみられる山門です。

山門とは、寺に見られる正門のことです。もともとこの地には大宮大明神があり、のちに薬菜山大宮寺が祀られました。明治時代の神仏分離令により薬菜神社の里宮となったのですが、山門は残りました。

通常、この形の門には8本の柱があるものですが、大宮寺山門の門柱は7本しかありません。そこには、やくらいじんじゃみわりゅうかぐら薬菜神社伝来の「薬菜神社三輪流神楽」（県指定無形民



大宮寺山門 背面写真（令和2年度屋根修復工事前）

俗文化財）も関わる言い伝えがあります。貞享元年（1684年）、伊達家からの要請により、しおがましんじゃ鹽竈神社にて三輪流神楽による祈雨祈願が行われました。その褒美として殿様から授けられたのが、この山門だと言われています。神楽を奉納した人々は、城郭にあるような立派な門を望んだのですが、武家ではないことから、通常よりも柱を1本少なくした珍しい形の門が与えられたのだと伝わっています。